

地域の絆で防災力を高める 「津波避難ビル」完成

松山の旧若松市宮住宅跡地に津波避難ビルが完成し、5月14日に落成式を行いました。当ビルは、津波襲来時には24時間いつでも避難することができ、台風時には避難所としても活用します。また、平時時には世代を超えた地域の方々のコミュニティ施設として利用できます。



市民防災室 ☎861-1102

低海拔地域の津波襲来に備えて

海岸線から内陸部にかけて、標高がおおむね5m未満の低地帯が広がっている那覇市。県公表の津波浸水想定によると、津波襲来時には2mから5m浸水すると予測されています。特に、松山・若狭地域は公共施設が少なく、民間ビルなどと避難協定を結んだものの十分な避難先の確保が困難でした。

そこで、東日本大震災の記憶を留め、市民の防災意識の高揚を図るとともに、安全で安心な、災害に強いまちづくりを推進する目的で、津波避難ビルを建設しました。当ビルは高さ約25m、床高が10mより高い3階以上の収容人数は、2000人を想定しています。

津波避難ビルの特長

- ① 津波襲来時には24時間避難対応
- ② 施設内に食料等の非常用物資を備蓄（2000人×2日分）
- ③ 太陽光発電等の自家発電システムを設置
- ④ 障がい者や高齢者が容易に避難できるようスロープを設置
- ⑤ 避難動線を3か所確保（海側2か所、58号線側1か所）

平時での活用で、地域の絆を育む

大規模災害発生時には「自助」「共助」の心が不可欠です。災害時に地域の住民が互いに支え・助け合う共助の心を育むため、当ビルは、平時では子育て支援センターや高齢者の介護予防事業などの市の事業を行うほか、青少年の交流・居場所づくりのためのレクリエーションルームなども設け、コミュニティ施設としても活用します。

また、1階には地域アンケートで要望のあった24時間稼働のスーパーが入居しており、災害時には応援協定に基づき、食料などの物資を提供していただく予定となっています。

フロア案内

4階	屋上広場
3階	青少年の交流・居場所づくりに関する事業を実施
2階	子育て支援センターや高齢者の介護予防などに関する事業を実施
1階	災害時には物資の提供も行うスーパー



屋上広場（4階）



レクリエーションルーム（3階）



子育て支援センター（2階）



介護予防の教室（2階）



熊本地震活動報告

4月14日に発生した熊本県熊本地方を震源とする「平成28年熊本地震」に伴い、市では、災害支援のために職員を派遣しました。消防局では、第1次および第2次緊急消防援助隊（計38人）を派遣し、熊本市内での余震による被害拡大の有無の確認や、南阿蘇高野台地区の土砂崩れ現場での行方不明者の救助活動を行いました。



熊本市内の倒壊家屋



南阿蘇の土砂崩れ現場

を防ぐため、被災宅地応急危険度判定士の資格を活かし、宅地や擁壁などの危険度判定を行いました。担当した益城町エリアは全壊だけでなく、傾いている建物の敷地が目立ち、危険なため、多くの現場を回り判定を行いました。「判定内容を伝えると、住民の方々から笑顔で『お世話になりました』と声をかけられ、大変な中でも私たちに気遣いしてくれるのが印象的でした」と話しました。

市では、今後も可能な限りの支援を続けていきます。



知念さんが危険度判定を行った宅地

義援金のご協力を！

熊本地震で被災された方々を支援するため、義援金を受け付けています。みなさまの温かいご支援をよろしく願います。

募金箱設置場所

- 那覇市役所本庁（1階総合案内）
- なは市民協働プラザ（銘苅証明発行センター）
- 各支所（真和志支所、首里支所、小禄支所）

受付期間

6月27日（月）まで

総務課

☎862・9911

また、4月下旬以降は、漏水調査に必要な資機材を搭載した車両を搬入しての水道管の漏水調査や、避難所巡回と家庭訪問による健康状態の把握のための保健師を派遣しました。

建築指導課の知念一芳さんは、余震や大雨などによる二次災害